

## 「モーシオンタイトの開発について VI」

「モーシオンタイト」は、アルミダイカストの締結に優れています。座面に対し、嵌め合い3山のねじで引っ張り合いをする通常のねじは、接触座面がへたったり、アルミダイカスト側の雌ねじを变形させたりします。3山に荷重が集中する通常のねじよりも、嵌め合い全域に荷重が分散する「モーシオンタイト」のほうが、バランスの良い締結を行うことができます。

昨年は、台湾とベトナムで各1社、製造販売契約を結ぶことができました。「モーシオンタイト」を初めて海外へ運ぶことができたわけですが、新しい製品を海外展開していくことは容易ではありません。今後は、欧米への展開を見据えて、性能をアピールしていけたらと考えています。

さて、今年目標は「緩まないタッピングねじ」を開発することです。毎年、新しい課題に取り組んでいますが、タッピングねじの開発は初めてなので、ワクワクしています。タッピングねじの良いところは、設計の自由度が大きいので、大胆な形状が考えられるということでしょうか。考え方は「モーシオンタイト」の設計と同じで、いかに軸を引っ張ることができるかです。軸がきちんと引っ張られたねじは簡単には緩みません。この当たり前のことが、実は一番難しいのですが、これまでの経験値で何とかなるのではないかと期待しています。

さまざまな種類の「モーシオンタイト」が、いずれ市場のデファクトスタンダードとなり、ねじの緩みによる事故を防いでくれること、これが開発のモチベーションになっています。

有限会社アートスクリー  
代表取締役 松林 興